

令和4年度 徳島県教育会研究主題

研究主題

変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く『人財』を育む教育活動
— 未来へつなぐ教育環境を創造し、一人一人が輝く教育活動の推進 —

主題設定の趣旨

Society5.0時代が到来しつつある中で、2020年、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こり、社会の変化は加速度を増し、社会はより複雑で予測困難な状況になってきている。このように急激に変化する時代における学校教育には、一人一人の子供が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

2020年代を通じて実現を目指す学校教育は、「令和の日本型学校教育」である。これは、効果的なICTの活用ならびにきめ細かな指導体制の整備による「個別最適な学び」と、これまでも重視されてきた「協働的な学び」とをマネジメントし、一体的に充実することを目指している。そして、家庭や地域等、学校教育を支える全ての関係者がそれぞれの役割を果たし、互いにしっかりと連携することで学校教育を推進し、心豊かにたくましく生き抜く子供を育てていくのである。

そのためには、まず、学習指導要領等*¹の着実な実施が重要である。学習指導要領にある「生きて働く『知識・技能』」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性』」は、まさに予測困難な社会を生きていく子供たちが獲得すべき資質・能力である。これらの資質・能力を培うために、私たち教職員一人一人が、どのような教育活動を実践し、どのような子供を育てていくのかというビジョンをしっかりと確立する必要がある。

本県では、「未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる『人財』の育成」を基本方針とした、令和元年度から令和4年度までを推進期間とする「徳島教育大綱」を策定し、教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策について、その目標や根本となる方針を定めた。すでに平成30年度からの5年間にわたる本県教育の新たな行動計画として、「徳島県教育振興計画（第3期）」を策定し、「徳島ならではの」の施策や、成果指標等が総合的かつ体系的に示されている。

私たち教職員は、新しい時代に対応した教育の流れを念頭に置き、学校教育の重要性を再認識するとともに、個々の資質・職能の向上に努め、学校力を強化し、未来の創り手となるために必要な資質・能力を子供たちに育むことのできる教育に取り組まなければならない。そして、子供たちが、夢を抱き、自らの行動によって未来を切り拓いていくための「生きる力」を身につける場と機会、つまり「未来へつなぐ教育環境」を創出することが大切である。

子供たち一人一人が、個性・能力を生かし、他者と協働しながら、心豊かにたくましく生き抜くための力を育む教育活動が、すべての学校園で行われることを願って、本主題を設定した。

*¹ 文部科学省公示の各校種の学習指導要領(29.3及び30.3)、幼稚園教育要領(29.3)、厚生労働省告示の保育所保育指針(29.3)、内閣府告示の幼保連携型認定こども園教育・保育要領(29.3)